

レニ依テ今年天下ニ疾疫發テ、國々ノ人皆可病死、カリツルヲ、我レ咳病ニ申行ツル也、然レバ世ニ咳病隙无キ也、我レ其ノ事ヲ云聞カセムトテ此ニ立タリツル也、汝デ不可怖ズト云テ、搔消ツ様ニ失ニケリ、膳部此レヲ聞テ、恐々家ニ返テ語リ傳ヘタル也、其ノ後ヨリナム伴大納言ハ、行疫流行神ニテ有ケリトハ人知ケル、但シ世ニ人多カレドモ、何デ此ノ膳部ニシモ此ノ事ヲ告ケム、其モ様コソハ有ラメ、此ナム語リ傳ヘタルトヤ、

〔大鏡内大臣道隆〕今の帝一條後東宮さしつゝきむまれさせ給へりしかば、よをおぼしくづをれて、月ごろ御病もつかせ給ひて、寛弘七年正月廿九日うせさせ給へにしぞかし、御歳三十七とぞ承りし、かぎりの御病とても、いたうくるしがり給ふ事もなかりけり、御まはぶき病にやなどぞおぼしけるほどに、おもり給ひければ、修法せんとして僧めせど參もなきに、いかゞはせんとして、道雅の君を使にて、入道殿に申給ひにけり、

〔源氏物語夕顔〕神事なる比は、いとふびんなること、思ふ給へ、かしこまりてえまいらぬなり、此曉よりまはぶきやみにや侍らん、かしらいといたくてくるしく侍れば、いとむらいにて聞ゆることなどのたまふ、

〔小右記〕寛仁二年十二月四日壬辰、自去二日心神不宜、夜不寢、吉平占云、咳病餘氣之上風病發動者、〔本朝世紀〕久安六年十月廿六日戊辰、近日咳病蜂起、貴賤上下、敢無免者、老者多以天亡、民庶粗死亡、近年以來第一咳疫也、

〔本朝世紀〕久安六年十一月廿八日庚子、於法勝寺被行如法仁王會、上卿權大納言公教卿、權中納言藤忠雅、參議同經宗朝臣、源雅通朝臣等參仕、右中辨光賴、右少史伴爲尙等行、左方布施事、右少辨藤資長、左少史清原宗景等、行右方布施事、被祈禱天下咳疫事也、今日一院無御幸、依御咳也、凡近日上下諸人莫不嬰此病之者、禁中及院中已以無人云々、